

カミカハヒ 上河合 能美郡河合の内の小字。

カミカハヒ 上河合 石川郡宮保の内の小字。

カミカハヒ 上河合 羽咋郡押水大海庄に属する部落。

カミカハラ 上河原 石川郡宮保の内の小字。

カミガハラ 上河原 羽咋郡河原の内の小字。

カミカラカハ 上唐川 カミカラコ 鳳至郡穴水郷之内大屋庄に属する部落。

カミキナメリ 上木滑 石川郡木滑の内の小字。

カミキンマ 上金間 石川郡金間の内の小字。

カミグチマチバナ 上町端 金澤城下から南上し、越前を経て京都に向かふ方面を上口といひ、その郊端を泉野の端とも又野町の端とも呼んだ。この上口の町端は時代に依つて甚だ異なる。即ち昔は野町の端一里塚の地を町端としたが、其の後泉町・泉新町が町地となり、泉新町養壽寺橋邊を町端とした。次いで有松村の地を城下に編入して、文政四年に有松町の名を建て、からはこれが町端となつた。上口の町端を世に野町の町端といふのは、蓋し往古の遺稱であらう。

カミクログガ 上黒川 鳳至郡大屋庄に属する部落。

カミクロマル 上黒丸 珠洲郡若山庄に属する黒丸は、明治中上黒丸と改めた。

カミゴトウ 上後藤 カミゴトウカクジヨウ

カミゴホリ 上郡 北陸七國志に、加賀のことを言うて、上郡・下郡一同に蜂起すとある。その上郡は江沼・能美を指すのである。

カミコマツ 上小松 カミコマツ 能美郡苗代郷に属する部落。

カミサザナミ 上佐佐波 鹿島郡佐佐波の内の小字。

カミサト 上里 鳳至郡里の内の小字。

カミサハ 上澤 鹿島郡澤野の枝村であつたが、明暦二年から村高を澤野と混じて、村名を唱へぬことになつた。

カミシ 上地 鳳至郡澁田の内の小字。

カミシマダ 上島田 石川郡山島郷に属する部落。この村の垣内に下島田がある。寶永誌に、この上島田村の領に大石が四つあつて、その形佛像に似る故に石佛と名づけるとある。

カミシミツ 上清水 能美郡山上郷に属する部落。

カミシモ 上下 カミシモ レイフク 禮服。

カミシヨウリキ 上正力 珠洲郡若山庄に属する部落。その枝村に下正力がある。郷村名義抄に、『此所の百姓重助と申者、家名を正力と申に付、村名に淵成候申傳候。』とある。

カミシンジヨウ 上新庄 石川郡宮保郷に属する部落。石川訪古遊記に、上新庄の領は村の西六十歩許に在つて、林氏の支族の居た所だとして居る。又同書に、上新庄村の三百田と名づける所から石鏡を出す、之を發けば風雨が起るとある。石器時代の石針が出たことであらう。

カミシノボガハ 上新保 江沼郡奥山方に属する部落。菱懸紀聞に、昔は杉水の領内であつたが、山口立番の時に分村したとある。上新保といふのは、能美郡の幕府領であつた新保村に對する名であるといふ。

カミシンボガハ 上新保 江沼郡上新保領舟御光山から出で、杉水・西住・市谷を經、九谷領に至つて大聖寺川に合する。

カミセンテ 上先出 カミセンテ 能美郡山田先出の内の部落。

カミノソリイハヤ 刺刀窟 能美郡舊市、瀬淵泉から白山への登路中、剽寇岩を越えた所にある。この地標高一五二〇米許。越前名蹟考に、『かみそりが岩屋とて、大磐石おほひたる下に、十數人を入るべき岩窟あり。うちに石佛多く有り。泰澄剃髮のところといふ。』とある。

カミダイボウ 上大坊 カミダイボウ 珠洲郡大坊の内の小字。

カミタガミ 上田上 河北郡金浦郷に属する部落。

カミダゴジマ 上田子島 能美郡田子島の内の小字。

カミダチ 上館 能美郡館の内の小字。

カミタツミ 上辰巳 石川郡岸川庄に属する部落。この村の新開所に田舎野があるが、無家であつた。

カミツチムロ 上土室 カミツチムロ 能美郡土室の内の小字。

カミテアヒ 上出合 能美郡出合の内の小字。

カミトキクニ 上時國 鳳至郡南時國の内の小字。

カミナカ 上中 河北郡金浦郷に属する中の小字。

カミナカヤマ 上中山 羽咋郡土田庄の中山は、明治中に至り上中山と改められた。

カミノ 上野 能美郡山上郷に属する部落。咄隨筆に、金澤東本願寺末寺が元祿三年三月十七日に罹災した後、その再建に當つてこの村から棟木の檜を伐出したことが載せられてゐる。

カミハセザキ 上長谷崎 鳳至郡鹿磯の部落西方に在る岬。

カミババ 上馬場 カミババ 鳳至郡馬場内の小字。

カミハマ 上濱 カミハマ 珠洲郡大谷の内の小字。

カミバヤシ 上林 カミバヤシ 石川郡林郷に属する部落。上林の名は夙く三宮古記に見え、又上林郷とも記されてゐる。

カミバヤシトウ 上林地頭 白山宮莊嚴講中記録に、觀應三年四月四日上林地頭大禪門立獻が白山宮御供米を米進に附した麻で、祭禮以後神神興をその館に振入れたことが記されてゐる。白山社藏延文元年六月十六日寄進狀に沙彌立獻判・藤原光顯判とあるから、立獻は光顯の父であらう。

カミバヤシノオホシヒ 上林の大権 石川郡上林の林郷八幡神社に在つて、もと胸高周圍一三米であつたが、今は一部腐蝕して一〇米八を測る。地上三米にして數幹に分かれ、別に根部より一幹を出し、加能二國に於ける最大の榎である。

カミハラ 上原 カミハラ 石川郡湯涌郷に属する中の小字。